

1月特別例会『ミツバチの羽音と地球の回転』

一般の方も鑑賞いただけます

新年おめでとうございます

会員の皆さんには、ご健勝とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

昨年は、自然災害の東日本大震災と、人間の行為が原因による福島原発事故放射能問題という特に大きな出来事起こり、さまざまなことを考えさせられました。現実を突きつけられた時、社会、組織、個人がどのように考え行動するのか、悪い点も良い点も、自身のことも他人のこともです。

加古川シネマクラブのことを振り返ると、1月『オーケストラ!』、3月『春との旅』、5月『冬の小鳥』、7月『ふたたび swing me again』、9月『彼女が消えた浜辺』、11月『ジュリエットからの手紙』の6本の例会を行いました。特に、宮城県の気仙沼などを舞台にした『春との旅』については、大きな津波被害の直後に観たことでたいへん印象に残る例会でした。また、10周年記念事業の第一弾として、7月は塩屋俊監督を招いて一般の方も鑑賞できる特別例会を行いました。その他の作品も良質なものだったと思います。スクリーンの前に座っている時は、他のことを忘れ、心豊かな生活の時間を持てたように感じています。

新年も、引き続き良い映画を観る時間を作っていきたいと思えます。

この会の運営面については、3年前からの会員数の減少が下止まりしたままの状況で、この会の運営が困難になり赤字状況に入りました。現在の会員数は163人です。安定して運営できる200人くらいになるよう、ご支援よろしくお祈りいたします。関係機関へのPR以上に、皆さんにクチコミやチラシを配っていただくこと最も効果があります。よろしくお祈りいたします。

例会のお知らせ

■名称／第58回例会、10周年記念特別例会
『ミツバチの羽音と地球の回転』

■日時／2012年1月25日(水) ①PM1:30～、②PM4:00～、③PM6:25～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■会員の受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■会員以外の受付／当日入場料1,200円、または、加古川シネマクラブ会員同伴者・高齢者割引入場料1,000円を支払って入場ください。



■タイトル／ミツバチの羽音と地球の回転

■監督／鎌仲ひとみ

■データ／2010年、日本、2時間15分、DVDc

■ジャンル／ドキュメンタリー

■解説／この映画は、放射能問題を取材したドキュメンタリー『ヒバクシャ 世界の終わりに』『六ヶ所村ラプソディー』の鎌仲ひとみ監督が、対岸に持ち上がった原発建設計画に反対を訴える瀬戸内海の小さな島、祝島の人々の暮らしぶりから、日本のエネルギー政策の未来を考えさせるドキュメンタリー作品です。主に2008年と2009年に撮影されたものです。

福島原発事故後は、反原発作品として、全国各地で上映されています。例会作品として選定するにあたっては、優れたドキュメンタリー作品として、長らく例会作品候補に残っていたものです。

文芸作品でもないしミツバチの話ではありません。このようなドキュメンタリーを観るのが好きでない人も多いと思います。悪しからずご了承ください。

山口県上関町祝島では、自然を大切にしそこから得られる恵みを糧とすることで連綿と続いてきた島民の持続的暮らしが、着々と進んでいく原発建設計画によって危機に立たされています。

一方、スウェーデンでは、国民投票によって脱原発を決定し、化石燃料に依存しない持続可能エネルギーへの転換を図っている活動があります。

日本とスウェーデン双方で新しいエネルギーを模索する人々や地域を訪ねることによって、日本のエネルギー政策の矛盾と不合理を考えさせられます。

■その他／当初、この作品は、10周年記念上映会として、監督をお招きして開催する準備をしていましたが、準備体制や経費の都合で、作品上映だけの特別例会として開催することになりました。

忘年会で選んだ2011年映画10選

12月16日、運営委員会を中心とした年末恒例の忘年会を加古川市役所北側の「六本木 萬ねん」で開きました。今年の夏に全国映連の映画大学を合同で開催する明石シネマクラブからも3名の参加があり、12名で2011年の個人的な出来事や映画について話し合うなど楽しい時間を過ごしました。意外でしたが個人的には良い年だったという人が多く、周辺の映画館で上映した映画が不作だったことを除けば、良かったと感じました。

また、恒例の2011年の映画ランキングを選んで楽しみました。映画ランキングは、多くの作品を見た人の意見を参考に、それぞれが譲れない作品を列挙し上手く決めました。この地域の映画館で上映された作品は、子供向けが多く、たいへん不作でした。しかし、神戸や大阪まで足を延ばして多くの映画を観ている人は、多様な作品がそれなりにあったということです。

まず、邦画は、基準作として『ステキな金縛り』からはじまり、結果として『海炭市叙景』など一部の人しか観たことがない作品が上位を占めました。メジャーな作品で誰もが納得する名作がなかったからでしょう。

洋画については、例年40作近く挙がる候補作品が約半数で選びやすかったのですが、これもダントツの作品がなく渋いところで落ち着きました。

例年どおり、このランキングを”忘年会で選んだ2011年映画10選”として紹介します。DVD鑑賞やテレビ放映を観るときの参考にしてください。

【邦画の部】

1位『海炭市叙景』（監督/熊切和嘉、主演/谷村美月）、2位『冷たい熱帯魚』（監督/園子温、主演/吹越満）、3位『一枚のハガキ』（監督/新藤兼人、主演/豊川悦司）、4位『マイ・バック・ページ』（監督/山下敦弘、主演/妻夫木聡）、5位『探偵はBARにいる』（監督/橋本一、主演/大泉洋）、6位『あぜ道のダンディ』（監督/石井裕也、主演/光石研）、7位『阪急電車 片道15分の奇跡』（監督/三宅喜重、主演/中谷美紀）、8位『コクリコ坂から』（監督/宮崎吾朗、アニメーション）、9位『ステキな金縛り』（監督/三谷幸喜、主演/深津絵里）、10位タイ『奇跡』（監督/是枝裕和、主演/前田航基）、10位タイ『エンディングノート』（監督/砂田麻美、セルフドキュメンタリー）

【洋画の部】

1位『ヤコブへの手紙』（フィンランド、監督/クラウス・ハ

ロ、主演/カーリナ・ハザード）、2位『人生、ここにあり!』（イタリア、監督/ジュリオ・マンフレドニア、主演/クラウディオ・ビシオ）、3位『エリックを探して』（イギリスなど、監督/ケン・ローチ、主演/ステイーヴ・エヴェッツ）、4位『神々と男たち』（フランス、監督/グザヴィエ・ボーヴォワ、主演/ランベール・ウィルソン）、5位『木洩れ日の家で』（ポーランド、監督/ドロタ・ケンジェジャフスカ、主演/ダスタ・シャラルスカ）、6位『ジュリエットからの手紙』（アメリカ、監督/ゲイリー・ウィニック、主演/アマンダ・セイフライド）、7位『未来を生きる君たちへ』（デンマークなど、監督/スサンネ・ピア、主演/ミカエル・パーシュブラント）、8位『英国王のスピーチ』（イギリスなど、監督/トム・フーパー、主演/コリン・ファース）、9位『ブラック・スワン』（アメリカ、監督/ダーレン・アロノフスキー、主演/ナタリー・ポートマン）、10位タイ『バビロンの陽光』（イラクなど、監督/モハメド・アルダラジー、主演/ヤッセル・タリーブ）、10位タイ『ゴーストライター』（フランスなど、監督/ロマン・ポランスキー、主演/ユアン・マクレガー）

前回例会の報告

11月22日の例会では、戯曲『ロミオとジュリエット』の舞台イタリアのヴェローナに現存するジュリエットの生家に届く恋の悩みを綴った手紙の中から、50年前の初恋の人を探すことになった主人公たちが恋について考えていく、正統派ラブヒューマン作品である『ジュリエットからの手紙』を鑑賞しました。観終わった人からは好評価でした。参加会員108人とやや少なかったことが残念でした。

運営状況

トホホ……。相変わらず財務状況は少しずつですが悪くなっています。約11万円の赤字と考えられます。

1月例会は特別例会として、一般の方の入場も有料で鑑賞できます。会員は例会として無料で入場でき、会員同伴者は1,000円で鑑賞いただけます。赤字を克服するためにも、原発問題に興味がある人にもお声掛けください

前回までと同様、会員の皆さんには、映画に興味のありそうな人に、この会のことをクチコミで宣伝いただきますようお願いいたします。
(事務委員、宮本)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 163人(11月22日現在)